



2023年12月8日

各位

会社名 株式会社ハイレックスコーポレーション  
代表者名 代表取締役社長 寺浦 太郎  
(コード番号 7279 東証スタンダード市場)  
問合せ先 経理グループ担当執行役員 芦田 安功  
(TEL 0797-85-2500)

通期連結業績予想と実績の差異ならびに個別業績と前期実績との差異に関するお知らせ

当社は、2023年10月期通期連結業績において、2023年6月2日に公表しました2023年10月期（2022年11月1日～2023年10月31日）通期の連結業績予想と実績に下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。あわせて、個別業績におきましては予想を開示しておりませんが、前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 2023年10月期の通期連結業績予想数値と実績との差異（2022年11月1日～2023年10月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	285,100	3,100	3,600	1,300	34.65
<b>実績値 (B)</b>	<b>298,623</b>	<b>2,980</b>	<b>5,327</b>	<b>△2,991</b>	<b>△79.75</b>
増減額 (B - A)	13,523	△119	1,727	△4,291	-
増減率 (%)	4.7	△3.8	48.0	-	-
(ご参考) 前期実績 (2022年10月期)	255,616	△4,856	△2,474	△7,120	△189.85

差異の理由

2023年10月期の売上高は、半導体の供給不足の緩和等に伴う自動車メーカーの生産増加に伴い、米国・韓国・日本を中心に中国を除くセグメント全般において前年同期比で伸長し、また円安による邦貨換算額の増加影響もあり、直近で公表した業績見込みを上回りました。営業損益は、原価低減と生産性向上、経費削減等の合理化による収益の確保や、各グループ会社での販売価格改定を始めとした利益改善の取り組みを進めたものの、材料コストの上昇や労務費・輸送コストの高止まりの影響をカバーできず、直近公表予想値に対して、減少しました。経常損益は、主に持分法による投資利益及び為替差益の影響等により、直近で公表した業績見込みより増加しました。親会社株主に帰属する当期純損益は、主に連結子会社において固定資産の減損損失4,582百万円を計上した影響により、直近で公表した予想値から大幅に減少し2,991百万円の損失となりました。

2. 2023年10月期の通期個別業績と前期実績との差異（2022年11月1日～2023年10月31日）

	売上高	経常利益	当期純損益	1株当たり 当期純損益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績（A）	49,082	3,004	△3,065	△81.73
実績値（B）	54,603	2,247	272	7.26
増減額（B - A）	5,521	△756	3,337	-
増減率（%）	11.3	△25.2	-	-

差異の理由

通期（2022年11月1日～2023年10月31日）の個別売上高は、主に半導体の供給不足の緩和等に伴う自動車メーカーの生産増加に伴い前年実績を上回りました。経常利益は、主に期首から為替レートが円高へと振れたことに伴う為替差損の影響により、前年実績を下回りました。当期純損益は、前期において特別損失に関係会社株式評価損 486 百万円、関係会社出資金評価損 4,094 百万円を計上しました一方で、当期においては関係会社株式評価損 968 百万円、関係会社出資金評価損 16 百万円の計上となり、特別損失が前年同期比で減少した影響等により前期の損失計上から 272 百万円の利益計上となりました。

以 上